

チップソーカッター

LA66

取扱説明書

- ご使用前に必ずお読みください。

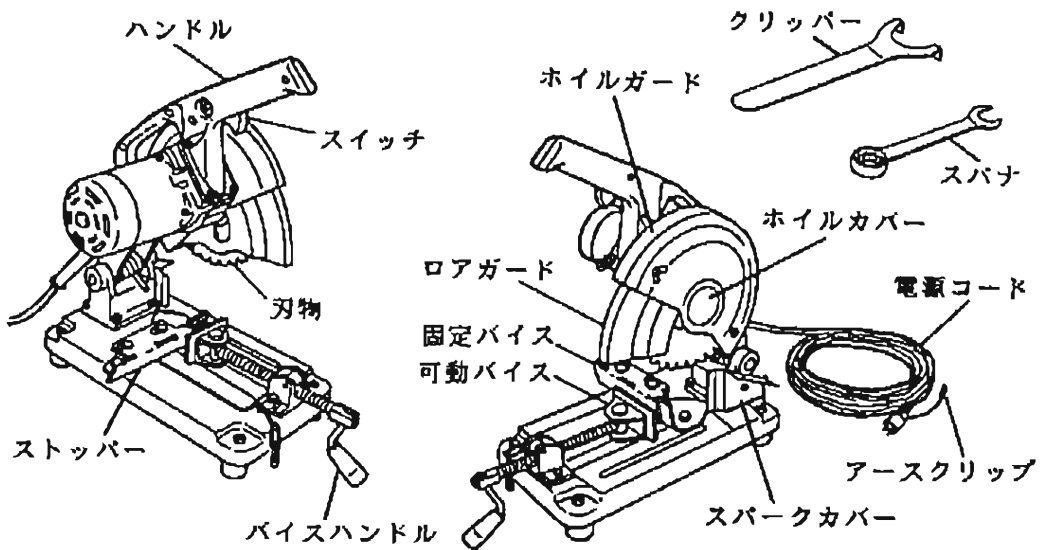
新タイワ工業株式会社 本社 〒731-14 広島県山県郡千代田町新氏神35

23306-94111 (2-6206) ©

1. 仕様

| | |
|----------|--------------------------|
| モデル名 | LA66 |
| 定格電圧 | 100 V |
| 周波数 | 50/60 Hz |
| 定格電流 | 12 A |
| 定格消費電力 | 1100 W |
| 無負荷主軸回転数 | 5500 r.p.m. |
| 刃物サイズ | φ180mm × φ20mm (内径) |
| バイスつかみ幅 | 105 mm |
| 最大切断径 | 外径φ 50 mm (パイプ) |
| 矩形材最大切断幅 | H30 × W80 mm (アルミサッシ) |
| コード長さ | 4m (2□×3Cアースクリップ付、V.C.T) |
| 外形寸法 | L452 × W246 × H278 mm |
| 重量 | 10 kg |

2. 各部の名称



3. 安全にご使用いただくために

(この項目は電動工具一般について説明していますので、お買い求めの製品と詳細の一部が異なることがあります。)

3-1. 正しい服装で作業しましょう。

ネクタイをつけたり、作業服のボタンをはずしたり、そで口をあけたままでの作業は、大変危険です。

3-2. 安定した姿勢で作業しましょう。

不安定な場所や無理な姿勢での作業は危険です。しっかりした足場の上で身体のバランスを保って作業してください。

3-3. 整理整頓しましょう。

作業場はいつもきれいにしておきましょう。そして十分な照明のもとで作業してください。乱雑でうす暗い場所での作業は能率も悪く危険です。

3-4. 作業場の安全を確認しましょう。

電動工具は使用中にスパークが発生することがあります。ガソリン・シンナー・ベンジン・ガス・マッチ・紙・わらくずなど引火しやすいものの近くでは、使用しないでください。また、作業関係者以外は作業場に近づけないでください。

3-5. 雨中や湿気の多い場所では使用しないでください。

故障や感電の原因になり、サビも生じやすく製品の寿命が極度に短くなります。保管するときも湿気の少ない所を選んでください。

3-6. プラグを差しこむ前にまずスイッチOFFを確認。

スイッチを入れたままでプラグを差しこむと、急に電動工具が動きだし、思わぬ事故につながります。

必ずスイッチが切れているのを確かめてから、プラグを差しこんでください。

3-7. 正規の電圧でお使いください。

例えば100V機種を200Vで使用すると、モーターや刃物部が異常な速度で回転して故障や危険をまねく原因になります。

3-8. 使用しない時は電源からプラグを抜いておきましょう。

使用しない時はスイッチを切って、必ずプラグを電源から抜いてください。刃物類の交換とか修理や点検時・停電の際も同様です。

また、不用意にスイッチを入れしないでください。

3-9. 刃物類には触れないでください。

運転中はもちろん、スイッチを切っても刃物類は少しの間、慣性で動きまでするので動いている間は触れないでください。

3-10. コードは大切に扱きましょう。

コードを持って製品を運んだり、コードを引っ張ってプラグを電源から抜いたりしていると、コードをいためることになり漏電や感電をまねく原因になります。また、高熱のものや刃物類・油脂類などにコードを触れさせないように注意してください。

3-11. 適切な場所に保管してください。

使用後はお子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。雨がかかったり、湿気の多い所ではサビが生じやすく、絶縁低下をまねき、感電の原因にもなります。

3-12. つねに点検と手入れをしておきましょう。

製品をいつも最高の状態で使用していただくためには日常の手入れが必要です。刃物類なども手入れをしておきますと、仕上がりがきれいになるだけでなく、作業能率も向上します。

3-13. 用途に合った刃物を最良の状態でお使いください。

刃物が用途に合っていないかったり、摩耗した状態で使用しますと、モーターに負担がかかり、作業能率も低下します。

3-14. 異常が発生したら使用を中止してください。

異臭や振動・異常音などが発生したときは、ただちに使用を中止して、買い求めのお店かお近くの弊社営業所にご連絡ください。

3-15. 切断機としての注意。

前項までは一般の電動工具としての注意事項について説明してありますが、切断機として特に下記の事項について注意してください。

- ①刃物を取り付けるとき、また作業前に刃物にヒビ割れ、歪、ふれ、チップ摩耗などが点検してください。
- ②使用前には、必ず試運転を行なって異常がないことを確認してください。
注) この時、刃物の線上に身体を置かないでください。万一刃物が破損したとき大変危険です。
- ③刃物交換は本書の手順に従って確実に行ってください。
また、ホイルガード、ホイルカバー、ロアガードなどの保護カバーは必ず正規に取付けてください。
- ④ご使用の際、労働安全衛生法で安全カバー、安全靴、安全メガネの使用が義務づけられております。
- ⑤本機に使用する刃物は、必ず新ダイワ純正刃物を使用してください。
- ⑥切断作業は刃物の回転が完全に上がってから行ってください。
また、回転中の刃物には手や身体を近づけないでください。

4. ご使用になる前に

4-1. 外観チェック

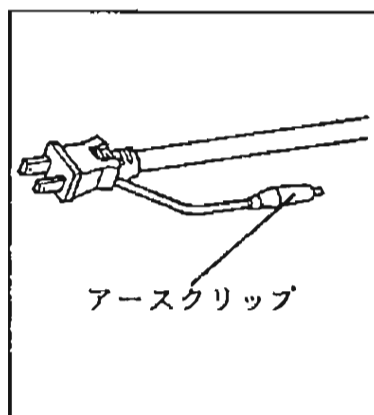
本機は工場を出荷する際、厳重に検査しておりますが、念のため破損やビス・ナット類のゆるみがないか点検してください。

4-2. 電源と電圧を確認

使用電源は単相交流 100V です。ご使用前に確かめてください。また、電源コードを延長して使用する場合は、必ず適切なサイズのものをお選びください。細いサイズのものには電圧降下をおこしトラブルの原因になります。

| | | | |
|---------------|-------------------|---------------------|---------------------|
| コードの太さ（公称断面積） | 2 mm ² | 3.5 mm ² | 5.5 mm ² |
| 延長コードの長さ | 15 m 以内 | 30 m 以内 | 50 m 以内 |

4-3. 漏電遮断器及びアース線の取付



プラグのアースクリップをアースに必ず接続してください。また、漏電遮断器が電源に設置されていることを確認してください。万一、漏電または感電があった場合でも大きな災害を防いでくれます。

注) アース線は、ガス管などに取りらないでください。大変危険です。また、アースが完全であることも確認してください。

4-4. 刃物の締め付けを確認

刃物はあらかじめ、工場で締め付けていますが、念のために確認してください。なお、ホイールカバーなどの保護カバーが正規に取付いているか確認してください。

4-5. 据付け

本機は平坦で安定した場所へ置いてください。なお、周りに燃えやすい物や危険物がないよう整理してください。

4-6. 移動について

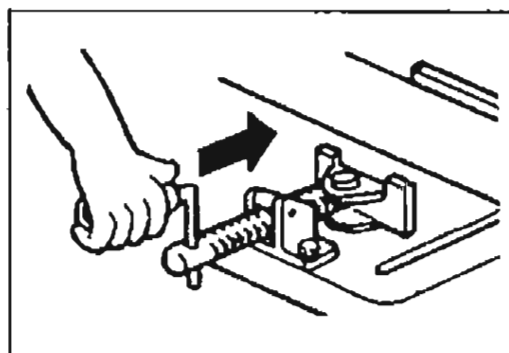
本機を移動させるときは、電源からプラグを抜き、スイッチを切っておいてください。

- ① フックをアーム部に引っ掛けて固定する。
- ② ハンドル部を持って移動してください。

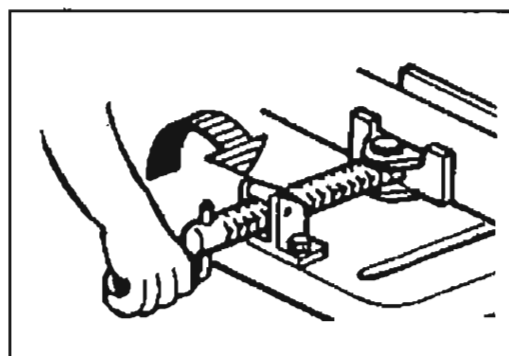
4-7. バイスについて

1 締付け方法

- ① 可動バイスと固定バイスの間に切断材を入れて、バイスハンドルを静かに押し、切断材に可動バイスを当ててください。

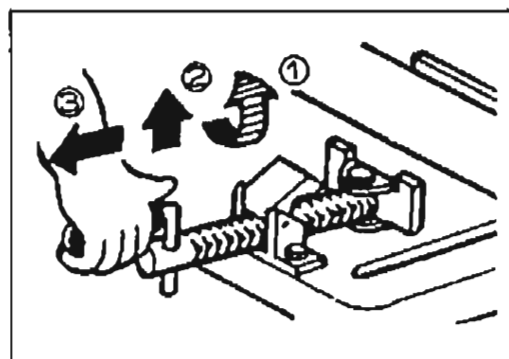


- ② 切断材に可動バイスが当たったらバイスハンドルを廻して確実に締め込んでください。このとき、切断材が動かないことを必ず確認してください。



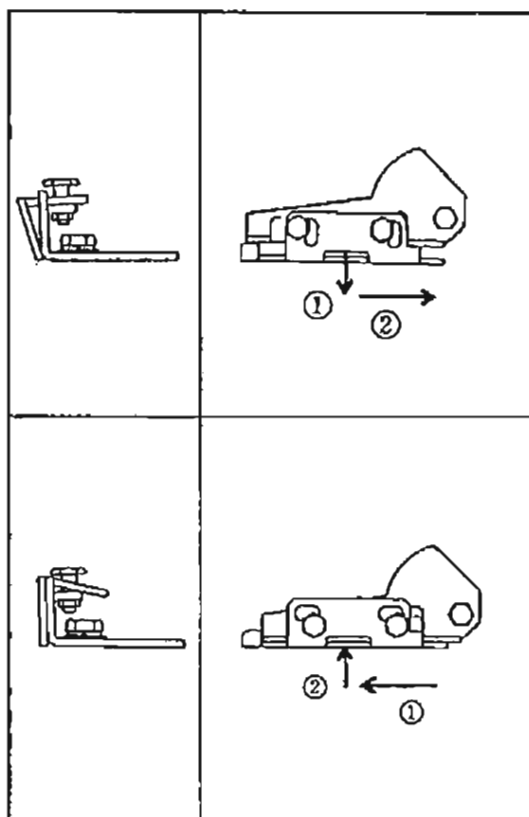
2 取り外し方法

切断作業が終わったらバイスハンドルを2～3回、廻してゆるめ、上に引き上げるようにして可動バイスを手前に引いてください。



4-8. 固定バイスのストッパーについて

㊸パイプ材、丸材を切断する場合
バイスのストッパーを右図のよ
うな手順で手前に引出してご使
用ください。



㊹平材、角材を切断する場合
バイスのストッパーを右図のよ
うな手順で奥に引っこめてご使
用ください。

4-9. 刃物について

刃物は、当製品の切断性能を基本に設定したものです。

その他の刃物を使用されますと、不具合を発生させる要因となります。

新ダイワ純正刃物“66カッター”をご使用ください。

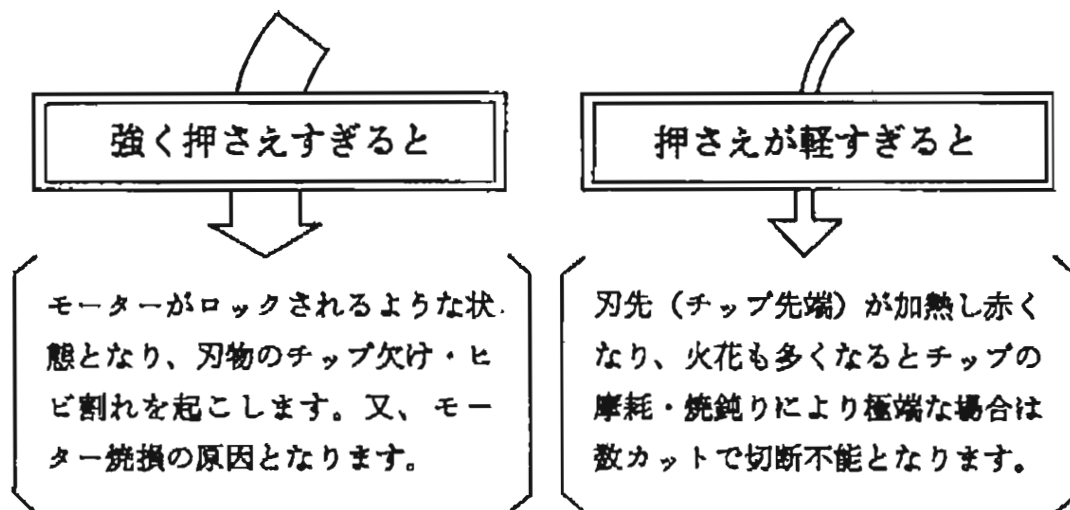
5. 切断の手順

前述3・4項目を確認したのちに本機のスイッチが切れていることを確め、電源にプラグを差し込んでください。（必ず付属の安全メガネを使用してください。）

- ① 切断材をバイスでしっかりと固定してください。
- ② スイッチを入れてください。
- ③ 刃物の回転が完全に上がってから、ハンドルを静かに切断材の上におろしてください。
注）刃物を急遽に切断材に当てないでください。
- ④ そのまま軽くハンドルを押し上げて切断してゆきます。

【切断のポイント】

1. 切断は、火花が一番少ない状態を目安に行ってください。
2. 少し押さえ気味で切断してください。
 - 押さえが軽すぎると火花が多く出る状態となり、チップの摩耗・焼鈍りの原因となります。
 - 強く押さえすぎる（特にモータロックに近い状態）と、刃物のチップ欠け・基板のヒビ割れの原因となります。
3. 何カットか切断した後、火花が出始めたら、さらに少し押さえ気味で切断を行ってください。
 - 少し押さえ気味で切断を行うと、チップの自生作用により従来の切れ味がよみがえります。
 - （注）火花が出始めると軽く押さえがちですが、逆効果で非常に早く切断不能となります。
4. 切断中多少のチップ欠けは発生しますが、切断に支障ありません。そのままご使用ください。
 - ただし、刃物の基板にヒビ割れが発生した場合は、ただちに使用を中止してください。そのまま使用されますと大変危険です。



㊦ 切断が終わったらハンドルを持ち上げて、スイッチを切ってください。

㊧ 刃物が完全に止ってから、切断材を本機からはずしてください。

注 1) チップの摩耗した刃物は使用しないでください。過負荷の原因となります。

2) 切断時は、安全靴、安全メガネの使用が義務づけられています。

6. 切断材

被切断材例

- | | |
|--|--|
| <p>1. ガス工事関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アイポリ管 ● グリーン管 ● SGP (ガス) 管 <p>2. 水道工事関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ダブルコーティング管 ● VB (内面コーティング) 管 ● 被ふく銅管 ● VP (塩ビ) 管 | <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ズンギリボルト (全ねじ) ● アングル ● アルミ ● 金属サイディング ● 窯業系サイディング ● ALC (鉄筋入) ● etc. |
|--|--|

切断に不向きな物の例

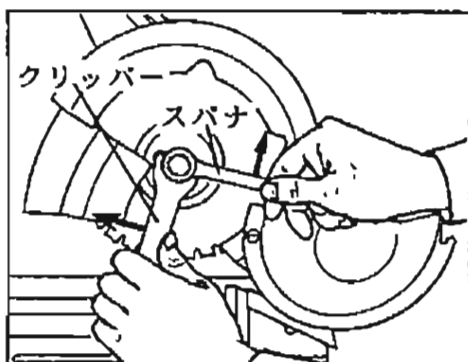
- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● ステンレス管 ● メッキパイプ | <ul style="list-style-type: none"> ● ムク材 (鉄筋) は ϕ 12mm まで切断可 ● 石綿管 (トミジパイプ) |
|--|---|

7. 刃物の取りはずし・取り付け

刃物の取りはずし、取り付けは必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いて行なってください。

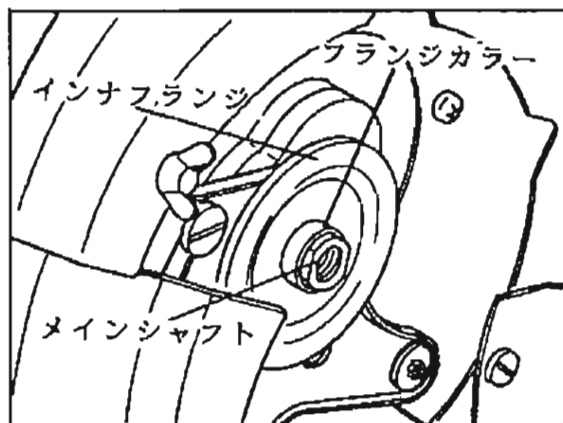
7-1. 取りはずし

- ① ホイルカバーの蝶ボルトをゆるめてください。
- ② クリッパーのつめをアウトフランジの2つの穴に入れ、アウトフランジを固定し締付けボルトをスパナではずしアウトフランジをはずしてください。
- ③ 刃物をシャフトからはずし引き抜いてください。



7-2. 取り付け

- ① メインシャフト、インナフランジ、フランジカラーなどについている切りくずをきれいに取りのぞいてください。
特に、インナフランジの当り面に切りくずが残っていると刃物が振れますので注意が必要です。
- ② あとは取りはずしの逆の手順で確実に取り付けてください。



注) ホイルカバーなどの安全保護装置を必ず取りつけておいてください。
取付けは取りはずしより注意をはらって確実に行ってください。
また、取付け後は必ず試運転を行なってください。

メ モ

A series of horizontal dotted lines for writing, consisting of 20 lines.

メ モ

A series of horizontal dotted lines for handwriting practice, arranged in a regular grid pattern across the page.